

28年5月議会

南小学校過大校対策の選択肢

質問

最後に、南小学校の過大校対策の選択肢について伺います。

さきの定例会で提案されました南幼稚園のこども園化事業は、原案のまま認めた場合、同じ施設内にある南小学校において、今後見込まれる児童数増加への対策が、プレハブ設置になってしまうのではないかという危惧から反対いたしました。南小学校の過大校対策については、今年度中に方針決定とのことでしたが、現状、過大校対策としてとり得る選択肢についてお聞かせください。

服部高佳教育委員会事務局理事

本年5月1日現在、吹田南小学校の通常学級数は20学級でございますが、昨年度に作成いたしました児童推計によりますと、平成29年度（2017年度）は通常学級を22学級、平成30年度（2018年度）は24学級、平成31年度（2019年度）は26学級、平成32年度（2020年度）及び平成33年度（2021年度）は29学級を推計しております。

現在、吹田南小学校は普通教室を26教室保有しており、少人数指導教室2教室を考慮しますと、平成31年度には普通教室が不足することが予想されます。

現状とり得る選択肢といたしましては、平成30年度に軽量鉄骨による校舎の増築を考えております。なお、増築場所については、現在の幼稚園の運動場部分を含め小学校の敷地内で、今後、関係部局と協議してまいります。

以上でございます。

質問

非常に残念だなというふうに思います。さきの定例会で反対した理由というのは、待機児童対策のためにはこども園化は大事だけれども、その幼稚園の敷地を小学校の教室として使うことによって、過大校対策は図れるという形で。ただ、こども園化を認めてしまうと、一千何百万円の投資をするわけですから、幼稚園の小学校への移行というのが、ちょっと現実的ではなくなるのかなど。しっかりと他の案を、私はプレハブ建設で過大校対策をするのは反対しておりますので、違う案がないのかという形で、当時、委員会でも議論をしておりました。その当時、この担当はこども部でしたけども。

その中で、いろいろな可能性が検討できるので、プレハブだけにこだわらず、しっかりと考えていきたいというふうな答弁をいただいていたような気がするんですけども、3月が終わって5月のこの段階で、もう既にプレハブを建てますというふうに、もうそれで検討しますという以外の選択肢は上がってきてないですね。結局、この間のこども園化の議案自体が、このプレハブ建設にも直接つながってしまったのだなというふうに、残念に考

えております。

ここからは最後、要望等をさせていただきます。この要望自体は、教育政策室だけではなくて、市全体でございますので、副市長、市長も聞いていただければと思います。

南吹田地区でございませうけども、今、課題と上がっているのが、幼稚園のこども園化による待機児童対策ですよね。あの地域は非常に子供がふえておりますので、当然、保育ニーズもふえてまいります。待機児童対策をまずしなければいけない、かつ子供がすごくふえているので校舎が足りない。現状、答弁いただいた中では、もう既に平成32年度、平成33年度には5教室足りなくなってしまうという状況が見込まれています。

ただし、今現状で、南小学校の児童1人当たりのグラウンド占有面積が下から8位となっております。そんなに広いグラウンドを有しているわけでもない。子供たちの教育のためには、よりよい教育環境を提供したいという思いがございませう。

あともう一つ残っているのは、あの地域というのは公共施設が非常に少ないということもございませうして、地域住民の方々から、公共施設の建設についてお声はいただいております。市の最適化方針に基づいて、必ずしもそれを実現しますというふうに約束はできませんけども、そういうニーズもあるというのが実態でございませう。

これを財源を加味せずに考えれば、環境センター跡地が南金田1丁目にもございませうけども、あそこに南幼稚園を、今後、こども園になるかもしれませんが、移転していただいて、その幼稚園があったところはしっかりと小学校の教室として使う。あのあたりは私立保育園が2園ございませうから、公立でしばらくこども園を運営した後、児童の推計を見ながら、他の園の運営を圧迫するようであれば、それを多機能の複合施設という形で転用すると。そういう趣旨で環境センター跡地、建物をそのまま利用してもいいかとは思いますが、空き地を、今、普通財産となっておりますので、転用を考えていけば、その地域のもろもろの課題を解決する一つのブレークスルーになるのではないかと思います。

この検討につきまして、副市長、もう一度検討いただきますようお願いしたいんですけれども、どのようにお考えでしょうか。

春藤尚久副市長

南小学校の過大校対策というか、あの地域について、具体の数字というのは、はっきりしませうけれど、新しい駅ができて、あるいは開発される可能性もあるような場所もある。そのような中でどう見きわめていくか、そこが重要だと考えております。

この南幼稚園の認定こども園化というのは、短期的な喫緊の対策として、私は必要だと考えております。小学校の過大校対策というのは、もう少し長期スパンの中で考えていかないといけない問題だと思いますので、私としては、認定こども園化イコールプレハブ化を前提とするということでもないのかなど。認定こども園化というのは、一定、短期間の中でやらなければいけない方策ですけれども、長期的な見通しをどこに置くか、それによって小学校のことを解決していく方策として、どういう手段をとるべきか、おっしゃっている

ようなことも含めて、検討をする必要があるのかなとは考えております。
以上でございます。

意見

ありがとうございます。先ほど上げていただきました児童推計においては、南吹田駅前開発に伴う開発可能地域の部分については、まだ推計されていないということなので、開発が成功して、あのまちが発展すれば、より子供がふえていくということで、うれしいことではございますけれども子供たちの教育環境を整えるということも非常に大事なことでございますので、前回にまたがったことではございますけれども、しっかりと検討をしていただいて、よりよい教育環境を整えていただきますように要望して、質問を終わります。
ありがとうございました。